

環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング発表資料

活動団体名：一般社団法人 九州循環共生協議会
活動地域：福岡県朝倉市
(情報共有先として久留米市/うきは市)

活動におけるテーマ

竹活用産業育成システム構築による 水源里山の保全と都市との循環共生圏づくり

～「筑後川流域・循環共生ネットワーク」(SDGs および適応策モデル) を目指して～

～「筑後川流域・循環共生ネットワーク」(SDGs および適応策モデル) を目指して～

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

- 水資源に恵まれない福岡都市圏(ピンク)
- 災害が多い筑後川流域(イエロー)



福岡都市圏広域行政事業組合「流域連携基金事業」JHPより

- ① 自然と共生した「水源里山保全型産業」と都市の消費者との広域連携地域社会
- ② 平成29年に経験した激甚災害に学び、適切な里山の利用と保全がなされた災害の少ない地域社会
- ③ 住民・企業等が参画した地域社会づくり

12 つくる責任
つかう責任

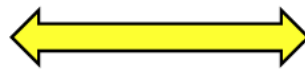


17 パートナーシップで
目標を達成しよう



- 里山保全ボランティア
- 竹活用農産品・観光
- 自然共生理念の共有

【情報発信・機会提供】
水源里山の状況発信
保全取組としての生業



【水源里山保全参画】

- 水源里山保全型商品サービス提供
- 消費者のボランティア体験



- 温暖化適応策
- 竹利用有機農業
- 酵素風呂
- 水源里山保全
- 水源涵養

15 陸の豊かさも
守ろう



13 気候変動に
具体的な対策を



地域の現状と課題

地域の現状

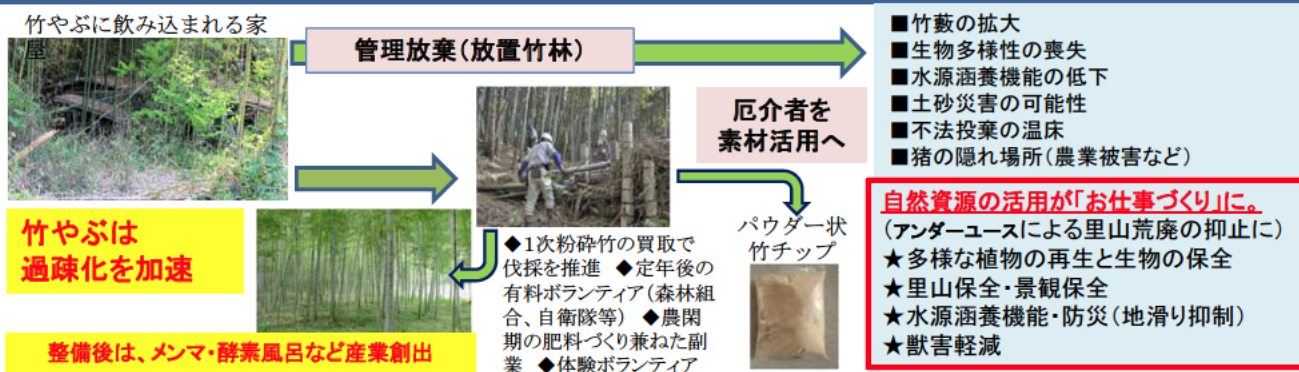
- ◎ **活動地域の概要**
 - 人口の減少
 - 働く場が少ない
- ◎ **活動地域の特性(強み・弱み)**
 - 筑後川とその水系が流れ、肥沃かつ平坦な農地が広がる。
- ◎ **活動地域にある地域資源**
 - 未利用資源としての竹、および、肥沃かつ平坦な農地
 - 空き家を含む稼働率の向上が望まれる施設や温泉
 - 有機栽培農産物、ならびに、そのノウハウ保持者

課題

- ◎ **現状から考える地域の課題**
 - 新たな産業の育成と需要の開拓
- ◎ **今後取り組むべき課題**
 - 発想転換、地域資源の見つめなおし
- ◎ **地域循環共生圏を活用し、解決しようとする課題**
 - 地域資源産業の育成
 - 都市圏とのヒト・モノの交流関係構築
 - 環境問題やSDGsといった都市圏需要側と共有。必要な情報の発信
 - 共鳴できる価値観を産業へ反映。

～多様な用途開発に有用なチップ。流通システム（ハード面、ソフト面）の構築が大前提～

地域循環共生圏を活用して目指す地域の実現のために



	プロセス	取組	関係者名	アプローチ・協働内容
①	ロケーション(竹やぶ)決定と、整備後の活性化を住民と協議	福岡県竹林オーナー制度を活用(福岡県・朝倉市と相談中)	■ 竹やぶ該地域の区長などを窓口協議(市が仲介)予定 ■ 伐採範囲と整備後の活性化策(メンマ・竹めか漬物・酵素風呂など)を区長と協議予定	
	活性化策(メンマ・竹めか漬物・酵素風呂など)準備	教育用テキストを作成。開講は次年度	■ メンマ・竹めか漬物の市民向け講座で有名な日高氏(糸島市)の協力確認済 ■ 酵素風呂「酵素庵」経営者・金森氏(熊本市)の協力確認済	
②	竹伐採促進策としての伐採竹(パウダー状竹チップ)買取システム試行	■ チッパー無償貸出 ■ 住民やボランティア等伐採者へ買取・支払	■ チッパーメーカーからレンタル(協議完了) ■ ボランティア募集(自衛隊OB団体、住民、農家など)予定 【備考】買取った竹チップは肥料用に嫌気発酵、希望者(農家)にて試用。	
	■ 竹チップ肥料登録の検討 ■ 肥料使用農家向け説明会開催準備		■ 協力者「たまな」は千葉県知事登録済。協力者より助言得る予定 ■ 「たまな」の事例に倣い県や市の協力を得、農家向け説明会準備	
—	販路開拓に向けた取組み(準備)。ふるさと納税大手サイトが運営するクラウドファンディングと協議中。商品などは販売でなく返礼品(予定)		■ 福岡都市圏CSR企業 ■ 福岡都市圏広域行政事業組合(全て予定。クラウドF準備次第で適宜提案)	■ 水源里山保全の取組の説明予定 ■ 寄付(ふるさと納税)・投資(クラウドF)へ協力依頼予定

今後の事業取り組み予定

【安定的経済循環に今後必要なもの】

安定的消費、担い手育成、プラットフォーム(営業・発信・連携)、資金(貸出用チップ・粉砕竹買取運営など)



陽が差さない。
光を求め地下茎が
拡散(侵食)
草も生えない
ガチガチの土壌

陽が差す。浸食
防止。多様性保
全。水源涵養機
能低下防止。



集塵機能付き
チップパー

一次破砕



嫌気発酵の
肥料と
無農薬野菜

竹チップぬか
床・メンマ



水源里山保全型の商品

ふるさと
納税

クラウド
ファンデ
ィング

○販売
×返礼品

投資
寄付

消費による間接参画



「竹利用=水源里山保全=水・空気の供給」の意義に賛同

次年度の取組

二次粉砕



廃校活用など既に引き合いあり



酵素風呂(砂風呂の様に竹パウダーを利用したリラクゼーション)

プラスチック成形材(植物配合抗菌樹脂)



図中の二次粉砕機を活用し、既に、竹を配合したプラスチックが生産されている。流域への工場誘致に向け、近隣市を交えた共同研究会を設置したい。

スケジュール (令和元年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定				◇請負業者決定 ◇事務局設置 ◇キックオフミーティング				現地意見交換会		◇中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◇		◇成果発表会 ◇シンポジウム
ビジョンの策定	テーマは、「水源里山保全型産業の振興を通じた、サステナブルな水の利用」 「水源里山保全型産業を通じた、サステナブルな水の【備考】「たまな」他、本事業協力者プレゼンも行う。翌日には3市内の農家向け「竹肥料事例紹介セミナー」も企画			「3市副市長+福岡都市圏組合の座談会」に向けた調整、9-10月開催目標								
ステークホルダーの巻き込み	<注>AGSAとは朝倉農業高校の跡地で、有機栽培農家を育成する学校を運営。株式会社 アグリガーデンスクール&アカデミー福岡・朝倉校			①ロケーション(竹やぶ)決定と、整備後の活性化を住民と協議 【県農林事務所・朝倉市】と「竹林オーナー制度」進め方確認・ロケーション候補決定			【「ロケーション該当区長」と伐採エリアの境界線確認、活性化策(メンマ・竹ぬか漬物・酵素風呂など)準備			【講師2名】と教育用テキスト作成(開講は次年度)		
				②竹伐採促進策『伐採竹(パウダー状竹チップ)買取システム』試行 【チップメーカー(銀大橋)】とレンタル期間決定 【伐採ボランティア】(住民/企業等)決定買取価格・日程決定。			【伐採ボランティア】から竹チップを買取。嫌気発酵し肥料化。【AGSA<注>】にて肥料として試用。アンケート入手 【県普及センター/朝倉市】と情報共有			【たまな】の助言を得、肥料登録申請作業の準備		